



無料トライアル
受付中!



導入事例インタビュー
GENBAx点検

詳しくはSORABITO株式会社にお問い合わせを!

お問い合わせ先

SORABITO株式会社 / info@sorabito.com
TEL: 03-5847-8991

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1丁目9番2号 第一稲村ビル8階

ソラビト GENBAx点検

<https://www.sorabito.com>

2025年12月時点

点検業務を電子化しペーパーレスに 地域のDX化リーダーが語る DX成功へのステップ



株式会社田中組(以下、田中組)は、北海道札幌市に本社を構える総合建設会社で、創業120余年の歴史を持ち北海道でも有数の歴史を誇る企業です。建設会社向けサービスである「GENBax点検」を提供するきっかけとなった、田中組との出会いから、同社がDX化を社内で推進するポイントまで、プロジェクトリーダーである土木部建設DX推進室の高橋様にお話を伺いました。

「GENBax点検」導入前の現場における点検の課題感を教えてください。

課題は実は2段階ありまして、まず、点検に限らず、ペーパーレス化の課題があり、解決策としてタブレットを現場に導入していたのですが、なかなか使われなかったんです。いままで紙で仕事が進められていたので、わざわざタブレットを利用しなくても仕事が進んでしまうのです。やはりタブレットを渡すだけではなく、建設DX推進室の方から何かしらの施策を打って、働きかけて行かなければいけないと思い施策の検討を進めました。

第2段階目の課題は、始業前点検の点検業務だけではどうしてもペーパーレス化が進められていなかったのです。インセンティブ施策で意識も高まっていたので、現場からも「点検表は紙なんですけど、どうにかありませんか？」みたいな声が上がって来ていました。

もちろん、点検に関するサービスの調査は進めていましたが、点検業務は自社だけではなく、協力会社も巻き込む必要があり、それに応えられるサービスがなかなか見つけれずにいたのです。

点検業務トライアル実施～社内承認までの道のり&ポイントを教えてください。

導入検討にあたり、まずはトライアルを開始するポイントは2つありました。1つ目は点検対象が多い現場であること。重機の扱いきれもあり且つ重機の入替えも多かったり仮橋の点検など、点検種別も多くあることでした。2つ目は徹底して実行できるメンバーが揃っていること。協力会社も含め、しっかり浸透させることができる環境があることです。

点検業務トライアル実施後は細かい要望はちょこちょこあがってきましたが、都度SORABITOさんに相談して改善していただいたので、課題感というほど大きなものにはなりません。週に1回くらいのペースで、要望のすり合わせや使い方に関するやりとりをさせていただきまね。トライアルでサポート体制がしっかりしているな、と感じられたところも、GENBax点検を導入できるなと思ったポイントです。



導入後の初動について教えてください。

初動の際、高齢の方は操作的なつまづきはあったようですが、使っていくうちに使いなれたようで、拒否反応のようなものは起こりませんでした。点検機能に加え、点検を管理するという機能が追加され、管理する側の目線では「これはいけるな」「きたな、これ以上ないくらいだ」と感動しました(笑)。実は社内では、少し機能がが多いのでは、という意見も上がったのですが、管理する上では、必要な機能であると思っています。

使い方など、現場の担当者にインプットする際は全建設現場に行き、直接使い方の説明をしました。「GENBax点検」に関しては、私自身の思い入れも強く、機能もすべて紹介したいので実際に現場に行き、その良さをしっかり伝えたいと思っていました。その後はヘルプサイトを見ることを促していますので、社内から私宛に問い合わせがくることはほとんどありません。

今後の「GENBax点検」に期待されることをお聞かせください。

必要な機能は既に揃っていると感じていますので、点検&管理という意味での課題感はこのところ思いつかないですね。今後の発展性という意味では、他社のサービスとの連携ができれば嬉しいです。他サービスで機械の登録などもしていますので、そこでの連携などができれば最高ですよ。

社内でDX化を推進するために。

当社も建設DX推進室ができるまでは、DXへの取り組みに時間がかかり、二の足を踏んでいた状況でした。全社で足並みを揃えようとすると、時間がかかるので、部門などの小さな単位で、まずは試してみるという動きをしていくのが重要だと感じています。

他の建設会社様でも、会社全体でDXを推進せよという方針がでており、担当者をつけるケースも多くなっていると体感しています。課題感をもっているDX担当者も増えているので、そういう人が増えていけばいくほど、DXの必要性は浸透していくと思っています。コスト削減に務めるのは当たり前なのですが、今までやってきたことを変えていくのはやはり簡単ではありませんよね。強い意志を持ち、現場と良好な関係性をもった担当者がリードする体制が構築できる会社様が、DXを進めていけるのではないかと思います。



KISHIMOTO

岸本建設株式会社(大阪府)

点検業務の工数を3分の2に！ 承認作業や書類検索などの負担も 軽減し1ヶ月あたり3営業日分の 工数削減に成功！



岸本建設株式会社(以下、岸本建設)は、大阪府摂津市に本社を構える建設会社です。1943年から土木工事の専門業者として創業し、創業から80年以上が経った現在では、200名以上の従業員が在籍し、大阪と東京を拠点に活動しています。2024年7月から、「GENBx点検」の無料トライアルを実施いただきました。初回のお打ち合わせから無料トライアル完了までは、フロ一整備などに時間を要することが多いのですが、岸本建設様におかれましては、わずか2ヶ月で本導入いただきました。

導入まで異例の2ヶ月という速さでした。意思決定が非常にスピーディーでしたがその理由を教えてください。

「GENBx点検」のトライアルを行った際に、点検業務をクラウドサービスで管理することの便利さを実感しました。

所長はコスト管理にシビアですが、現場のメンバーが全員「GENBx点検」を毎日使用して点検を行っていたので、サービスを継続するために本導入に至りました。

全社での導入ではなく、現場単位での導入がスタート地点だったため、他社と比べてもスピーディーに導入できたのではないかと思います。

新しいツールの導入への抵抗や社内からの意見などはなかったですか？

もともとトライアルを実施した現場の担当者が、他現場で元請企業が用意していたクラウドの始業前点検サービスを利用していたため、クラウド点検サービスに大きな抵抗がなく使ってもらえました。承認担当者から最初に利用方法の問い合わせがありましたが、その後はスムーズに運用できています。

所長以外の現場のメンバーは20代を中心とした若い年代であり、デジタルに親和性が高い点も、活用定着につながったと感じています。

トライアルを行ったことで、新たな課題の発見や、気づきはありましたか？

大きな課題などはありませんでしたが、協力会社の方が点検したものを承認する担当者自身も、現場の作業員だったため、代理承認が難しく、承認フローを変更しました。私たちの現場は業務効率化に対する意識が高いメンバーが多かったため、スムーズに運用できました。

今後、他の現場で導入をする際に、ポイントとなる点がありますか？

現場での導入は、メンバーの声が広がりやすく、伝わりやすいというメリットがあります。しかし、それを全社で実行しようとする、どうしても伝播しにくい、浸透には時間が必要です。少しずつ広げていくことが重要です。

弊社の売上の大半は、1次下請の現場となっています。元請け現場での導入に比べて、下請けの現場では弊社以外のさまざまな業者も関わっているため、「GENBx点検」の導入を打診しても、導入が進みづらいのではないかと考えています。

また、点検作業の効率化に着目している方は少ないように感じています。私たちのような一次請けをしている業者から活用を提案していくことで、岸本建設の価値の向上にもつながると信じています。

導入の効果について教えていただけますか？

「GENBx点検」を使用している現場のメンバーからは、9台ある建機の点検の際に、1台あたり一度の点検業務にかかっていた時間が15分から10分に短縮できたと喜びの声が上がっています。現場全体で見れば、承認作業や書類検索の負担も軽減され、紙に記録していた頃と比較すると、1ヶ月あたり、おおよそ3営業日分の時間が短縮され、人的コストもその分削減することができました。

点検する項目は導入以前と同様ではありますが、紙ベースでの運用と比べると大幅に効率化された印象を受けています。また、操作が簡単で使いやすいという声も聞いています。

サービスを活用して、取り組みたいことや展望があれば教えてください。

私たちは自社で重機を保有しているため、「i-Rentalシリーズ」とも連携できるといいですね。現場ごとに重機を登録するのではなく、保有している重機を誰でも簡単にまとめて登録できて、使用される現場で点検作業もできるようになったら便利です。

「i-Rental 点検」や「GENBx点検」は、多くの人が当たり前に対応しているけれど、実は手間がかかる業務を効率化するサービスです。

この手の業務は、意外と多いと思っており、点検関係や書類関係の業務の手間を削減できるサービスが拡充されると、より良い世の中になるのではないかと感じています。





株式会社井木組(鳥取県)

工事成績評定の加点で競合他社と差別化を!点検漏れや遅れによる確認や指示にかかるコミュニケーションコストやストレスがゼロに



株式会社井木組(以下、井木組)は鳥取県に本社を構える建設会社で、鳥取県・島根県などを中心にインフラ整備から学校、マンション、戸建住宅の新築・リフォームを行っています。

2024年6月に「GENBAX点検」の無料トライアルを1つの現場で実施いただき、現在は5つの現場で導入いただいています。「GENBAX点検」の導入の背景や具体的な成果、導入に至る経緯などについて、トライアルいただいた現場の責任者である伊藤様にお話を伺いました。

「GENBAX点検」を聞いてみようと思った理由について教えていただけますか?

建設工事の入札の評価においては、施工現場を点数で評価した「工事成績評定」が重要な要素のひとつです。国土交通省の指標は、「80点＝優秀な工事」「83点以上＝優良工事としての表彰対象」であり、表彰された企業と技術者は総合評価落札方式の入札において、他社より優位な条件で落札ができるようになります。

また、導入を検討していた当初は、鳥取県内では、「GENBAX点検」の活用はされていない状況でした。

同じ業者で競い合う入札において他の業者と差別化を図るには、現場の評価に付加価値をつけることが重要であるため、「GENBAX点検」を活用することでそれが実現できるのではないかと考えました。

導入の決め手は何ですか?

「GENBAX点検」の導入によって業務が効率化されることで、現場の評価における付加価値の向上への期待が挙げられます。現在、国土交通省が発注書のペーパーレス化を進めており、当社も発注書はペーパーレス化していますが、さらにペーパーレス化を推進していくというタイミングだったことが、導入の決め手になりました。また、「GENBAX点検」導入費用はリーズナブルで、導入のハードルが低いことも導入を決めた理由の一つです。

紙で運用していたときは1ヶ月に1度の確認だったため、私からリマインドすることはなかなか難しかったのですが、導入後はデスクで休憩する際に日々チェックし、まだ対応されていない場合は声かけをするようになりました。無料トライアルを通じて、点検業務の効率化と、安全性の向上を実感できたことも導入を後押ししてくれました。

導入の際に苦労した点がありましたか?

建設業界の特性上、職人気質で保守的な人間が多いため、実際に現場の方々が使ってみるまでのハードルが高く、苦労しました。皆日々の業務に追われているため、新しいことにチャレンジすることはどうしてもハードルが高くなってしまいます。使えば便利なツールだというのがわかりますが、やはり使うまでの壁が高い印象でした。その壁を取り払うのが私の役目だと思っています。

導入の効果を教えてください。

期間として約10ヶ月間の現場において、職員3名で合計36時間の人的工数削減と、業務の効率化を実現できました。点検に関する報告の漏れや遅れがなくなったことも大きな成果です。報告が遅れると作業員に確認の連絡をしたり、指示したりしなければなりません。その様なやり取りが不要になりコミュニケーションコストが削減できたこと、言う側、言われる側双方のストレスも軽減されたと感じています。

また、紙で運用していたときは月に100枚程度の点検表を印刷していましたが、それが不要になり、ペーパーレス化につながりました。現場が終わると、書類などを段ボール箱に入れて運び出すのですが、その際の荷物が少なくなったと実感しています。



サービスを活用して、取り組みたいことや展望があれば教えてください。

現在、当社では5つの現場で「GENBAX点検」を導入していますが、今後は全社的に導入されると良いですね。国の工事では導入されていますが、県の工事では導入されていないという状況にあるため、国工事から県工事に配置換えになった場合は、紙の点検表で管理するかたちに戻ってしまいます。

現在は大体1つの現場で2~3人が「GENBAX点検」を活用しています。利便性の良さを理解しているメンバーが、他の現場に就くことによって、活用がどんどん広がっていくのではないのでしょうか。

現在は、競合他社との差別化のために「GENBAX点検」を活用していますが、将来的には、建設業界全体に広まって、この様なツールが当たり前で使用されるようになることが理想的です。そのためにも、まず社内で「GENBAX点検」の活用を浸透させて、建設現場を効率化していきたいです。

まずはやってみよう! 積極的にICT・DXを取り入れ常に 前進。現場ボトムアップで狙い通り の効果を実感



株式会社丸田組(以下、丸田組)は、北海道網走市に本社を構える大正8年創業の建設会社。長い間地域の産業や暮らしを支えてきました。自社では進んでICT技術を取り入れるなど、常に新しいことにチャレンジされています。2024年4月にリリースした「GENBAX点検」のβ版を2024年8月から無料トライアルでご利用、幾度に渡る機能改善のご要望をいただき検証後、2024年10月に「GENBAX点検」を3つの現場で本番導入いただき、現在はさらに導入現場を増やしてご利用いただく検討をされています。

組織・部署のDX推進の取り組み状況について教えてください。

当社は以前からICT・DXについて進んで導入してきましたね。会社全体で意識的に取り組んでいるというより、自分たちが「便利」が一番考えているので会社からよりも現場担当者が興味のあるツールを実際に使ってみて検証してみる流れです。

例えば安全日誌も自社でデジタルフォーマットを作ってタッチパネルでチェックできるように作ったりしています。今ある環境・モノを最大限に活かそうと考えています。

新しいシステムなどは担当者が実際に触ってみたいとわからないので、会社には導入してみても大体は事後報告です笑

「GENBAX点検」を知ったきっかけと、話を聞いてみようと思った理由について教えてください

元々、デジコンの記事でSORABITOさんの事を知りましたね。当時から安全書類管理をデジタルで保存できないかと思っていたので、ちょうど良いのではとピンと来ました。実は私、手書きが嫌いで・・・大量の紙を見ていると憂鬱になるんですよね。できる限り紙をなくしたいという思いがありました。

そこで、タイミングよく千葉県の幕張メッセで開催されていた「CSPI-EXPO 2024 - 第6回建設・測量生産性向上展」に出向き、ブースで話が聞けたので、実現性が見えましたね。まだあの当時はβ版だったのでこちらの機能要望をリストにして担当者の方とやりとりを行っていました。SORABITOさんの「GENBAX点検」チームは次々と機能要望に応じていただき、これはいけそうと日に日に実感が湧いてきました。

導入の際に苦労した点はありましたか？

いえ。それほど苦労した点はなかったです。元々自分たちが使いたいと思って進めていたプロジェクトなのでトライアルを行いながら導入後のイメージを持つことができました。

現場の作業員の方々は初めて触るので抵抗感はあったようでしたが、画面のイメージをキャプチャした紙の一枚物をSORABITOさんの資料から切り貼りして用意し、点検作業のやり方を説明してからは皆さん苦なく使ってくれていますね。

皆さんの平均年齢は50歳後半から65歳前後なのですが、すぐに慣れてくれて好評です!

導入の効果を教えてください。

安全点検にかかる時間が1/3以上効率化された実感があります。さらに安全点検項目が多くなればなるほど効果が出ますね。20機種くらいあれば効果テキメンじゃないかな。

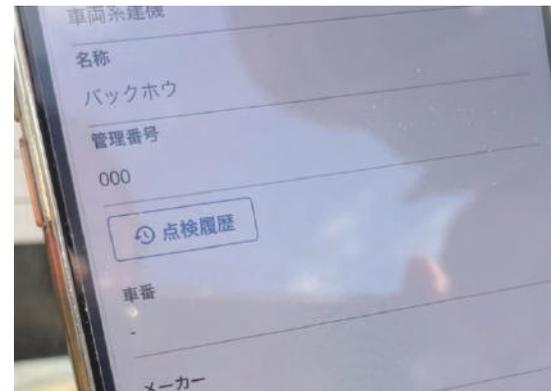
あと、一括承認ができるのがいいですね。一枚ずつハンコを押さなくていいのが大変助かりました。これだけでも30分はかかりますから。

「GENBAX点検」を活用して、取り組みたいことや展望があれば教えてください。

4月から新しい現場で広げていきたいと考えています。2024年の10月にNETIS認定されたと聞いていますし施主へのアピールには間違いはないかと。

また、役所の方が安全パトロールを見に来られた時は当社のDXにびっくりされていましたね! 紙がないので!

どんなことをやっているの?と聞きたいと言わんばかりに興味津々と現場をご覧になられていました。



これからICT・DXを推進・導入されていく企業様に対して「肝」があれば教えてください。

単純に常日頃から自分たちの「一番便利」を考えていることが重要です。加えて、現場はボトムアップの方がやりがいがありますし進むことは間違いないです。進めてみるのですが、やはり現場サイドに主導権がある方がDXは進むと確信しています。これまでのやり方で守るべきは守っていき、ICT・DXの活用に対して縛られるよりは自由に活用・応用していける環境が必要と考えています。



株式会社塩浜工業(福井県)

「非効率」を徹底排除。 現場でのペーパーレス化推進で 施主評価がさらに獲得!



株式会社塩浜工業(以下、塩浜工業)は昭和46年の設立以来、総合建設業として高度な技術力と確かな施工能力による高品質の建造物を提供されており、【鉄のシオハマ】として「特殊鋼造」技術・「免震・制震・耐震」技術をもとに、発電所、電波塔のような大型建造物からトンネル、道路、物流・商業施設を現地調査から設計、施工、保守まで一貫して対応されています。

組織・部署のDX推進の取り組み状況について教えてください。

土木事業部としては、CIMを積極的に活用していく方針であり、若手向けの講習会等を積極的に開催しています。CIM活用以外でも生産性向上のためのITツール等は積極的に使用しています。結果として現場では業務効率化・ペーパーレスに寄与できていると思います。ただし、すべてがペーパーレスという訳ではなく作業手順書・重機計画書・KY活動等、従来の紙ベース管理の方が融通が利く部分についてはペーパーレス化せず従来通りで使用するなど電子化に適しているか見極めを行って導入しています。

また昨今の働き方改革の流れで残業規制もあるので若手社員が担当している点検業務を一日30分でも短縮できないか、管理側の月末押印も効率化できないか等の期待もありました。

導入の背景を教えてください。

従来までの点検業務の効率化という面では、紙の紛失や汚れ・点検の実施状況が不明確であったのを確実に管理できる点が一番のメリットです。それ以外にも労基の監査や発注者等に対してDX推進のアピールにもなる点等があります。

他社さんの同様なサービスと比較した際に「GENBax点検」に決定したポイントは「スマホ・Webで簡単にできる」「使い勝手の良さ」「価格」でした。

トライアルはされずそのまま本番導入いただきましたが、いかがでしたか?

現場が着工するタイミングということもあってある程度はカバーできるだろうと想定して導入を決定しました。慣れが必要なことと多少チューニングも必要かなと思っていたのですが、実際のところ画面がとつきやすく点検が楽で使いやすい!マニュアルがなくても大体直感的に使えましたね。価格もリーズナブルなのでこの金額で使えるのは文句なしです。

また、現場で利用する作業員の皆さんの抵抗感はなかったです。

我々職員や協力会社の職長さんもクラウドサービスやタブレット等を使用しているので現場もデジタルツールには慣れてきていましたし。



導入の効果を教えてください。

発注者には非常にいいアピールとなっています。安全パトロールの際にも「おお、こんなのあるんだ!」と活用についてお褒めの言葉をいただき、他社さんからも感心の言葉を貰います。数値的な効果はまだ正確には出せませんが、点検に関わっている関係者の工数は確実に減っていますし、紙の印刷量は激減しました。点検後のデータはPDFで出力してクラウド保存しているため、紙媒体を一切なくして過去の点検記録をすべて保存しています。

「GENBax点検」に追加して欲しい機能があれば、教えてください。

正直、今の段階で不足しているものはないと感じています。機能としては作業員の健康管理もやろうと思えば一元管理できますが、体調管理チェックまでは今のところ考えていません。職長でここはKY等と合わせてやっているので手書き部分は必要な箇所もあると考えています。そのためKYはまだ必要ないですね。

人の健康管理を行うなら、顔認証と連動出来ると良いですね。顔認証での入場は現場の規模にもよりますが、300人近い入場者がいる場合、認証機械の設置台数も多くなるし、どうしても混雑しますから。

「GENBax点検」を活用して取り組みたいことや展望があれば教えてください。

今後は更に6現場での導入を検討しています。弊社の建築現場は、大規模な倉庫がメインな為多い時で30台近くの高所作業車が稼働します。また、漏れなく管理点検もしなければなりません。

台数が多いだけに、未使用車の返却タイミングなどを計るには、稼働状況の把握も必要です。当社としてはお伝えしたように建築系は、これからもBIMやCIMを活用していく方向です。建築業界は紙が多く図面を広げて議論する文化がまだ残っているため、デジタル化には時間がかかりますが、工程表等を揃えたり、形式を統一していくことでより作業効率を改善できるのではと期待しています。



株式会社屋部土建 (沖縄県)

DX推進は「スモールスタート×現場での地ならし」がカギ。

使う人を第一に考えたツール選定が協力会社・施主からの信頼を獲得



株式会社屋部土建 (以下、屋部土建) は昭和25年 (1950年) 設立の沖縄県に本社を置く総合建設業。土木・建築工事や海上工事を得意とし、沖縄県内はもちろん鹿児島県でも建設工事に携わっています。従業員数は331名 (2025年6月現在)、平均年齢は37歳と全産業に比べて高齢化が進んでいる建設業では若年層の活躍に力を入れられている屋部土建。2025年度の新入社員は21名で、沖縄県内では「若手チャレンジ編」のCMも放送されています。

組織・部署のDX推進の取り組み状況について教えてください。

全社的にDXに取り組んでおり、経営層から現場スタッフに至るまで、それぞれの立場から積極的に推進しています。テレビCM、SNSでも積極的に情報発信を行っています。現場で使用するアプリに関しては、ボトムアップでの要望やフィードバックが原動力となっており、実務の中で自然と取り入れられています。2017年頃、全社的にGoogle workspaceを導入しましたが、これは当時の社長 (現会長) の発案によるものでした。当時は「DX」を意識していたわけではありませんが、振り返ってみると、結果的にDXを推進している企業として認知されていると実感しています。

DX推進への流れは、計画的に進めたというよりも"あるべき姿"を自然と追いかけていた感覚に近いです。基本的にはスモールスタートで、使える人から使っていくスタイルです。

導入の背景を教えてください。

導入の背景ですが、当社では年に1~2回、安全大会を開催しており、毎回100名~200名ほどの協力会社の方々にご参加いただいています。そこで過去の労働災害の傾向などを分析しているのですが、どうしてもアナログな部分があり、二度手間になってしまったりと、見える化できていないことに課題を感じていました。そうした状況に有効なのが、「GENBAX点検」だと感じています。

「こういった労働災害が起きました」といった情報は社内チャットで共有されるものの、ナレッジとして整理・活用できておらず、そのまま流れてしまうケースが多いのが実情です。

もちろん記録としては残っていますが、蓄積された情報をしっかりと見える化して活かしていく必要がありますね。

導入の効果を教えてください。

感覚としては作業時間が約半分に削減できました。紙から置き換わったことで点検作業と共有が同時にでき、確実に業務削減に繋がっています。安全点検にかかる時間は半分以下になりましたね。人の管理含めて15~16件管理しているのですが、毎月の紙の出力やファイリングがなくなったので業務としては楽になりました。

また、県内で施工中の大手ゼネコン現場でも「GENBAX点検」を導入しているみたいで、そこに入ってる協力業者から「これ、いいですね!」と、現場で話題になりました。

また、当社では新入社員教育でも「GENBAX点検」を見せながら教育を行っています。

施主様からの印象はいかがでしたか?

発注者のプロセスチェックでは、「GENBAX点検」で作成した点検簿を提示しています。NETISにも登録されているツールなので、しっかりとアピールでき、監督員もかなり関心を持たれていました。また、安全パトロールの場面でも、建災防担当の方が同様に高い関心を示されていて、実際の運用面でも評価されていると感じています。

現場ではこれを印刷してPRしています。

「GENBAX点検」を活用して取り組みたいことや展望があれば教えてください。

次のステップとしては、安全パトロールを活用しながら、現場の見える化をさらに推進していく予定です。是正事項はどうしても出てくるものなので、それらをしっかりとナレッジとして蓄積し災害防止に繋がる仕組みづくりを行っていきたいと思います。

今後はさらに二重三重に行っているような重複作業を見直し、省人化・効率化を目指して取り組んでいきます。

また、建機レンタルの「i-Rental 注文」との連携が進めば、沖縄の建設業全体にとっても大きなメリットになると感じます。



業務時間の劇的な短縮に貢献。 現場の業務効率化に確実な手応え



旭建設株式会社(以下、旭建設)は1959年6月に設立し、宮崎県日向市に本社を置く建設会社です。旭建設は、「地域良し・発注者良し・企業良し・未来も良し」という「四方良し」の理念を掲げ、「笑顔あふれる社会の実現」という目標を目指して活動しています。企業として、社会貢献に積極的であり、SDGsの推進やDX認定の取得、流域治水サポーター指定などの先進的な取り組みを行っています。

「GENBAX点検」導入の背景。

「GENBAX点検」導入のきっかけは、2025年1月24日に開催された「宮崎県インフラDXコンソーシアム」でのSORABITO会長 青木の講演でした。

「ペーパーレス化がDXの最初の一歩」と題して登壇した際に、旭建設の黒木社長をはじめとする経営陣の皆様にご共感いただき、サービスの導入検討が始まりました。

「GENBAX点検」が現場の安全点検にかかる工数削減と紙使用の削減に貢献できると評価いただき導入に至りました。

導入前の安全点検業務に関してどのような課題がありましたか？

働く人数が多い現場では、点検の数が増えるほど紙の枚数が増え、書類をまとめるのに時間がかかるので、休憩時間を削って作業していました。また、現場で不定期に作業される協力会社や作業員の方にも点検をしてもらう必要があるため、その方たちのために毎回1枚の点検表を用意していました。

結果として、紙が溜まっていき管理枚数が増えるばかりでした。

「GENBAX点検」の導入後に、世の中では「ペーパーレス化」が行われているにもかかわらず、建設現場では非常に紙が多いという実態を改めて感じました。

導入の際、苦労したことはありましたか？

当初、点検表の設定(特に「安全巡視」など)には慣れていなかったため少々苦労しましたが、導入が決定した後にSORABITO阿部さんから個人的に教えてもらいながら運用を開始することができたので、基本的な安全点検業務は運用できるようになりました。

同じ様式・表形式であれば、Excelシートを元に項目だけを変更して作成することが可能になりました。重点目標など細かい設定や複雑な表形式の作成はもう少し慣れていく必要がありそうです。

導入効果や、導入されて新たに気づいたことはありましたか？

・ペーパーレスについて

「GENBAX点検」導入後に最も強く効果を感じられたのは、やはり「紙が減ったこと」ですね。その他には、安全点検業務にかかる時間の短縮、紙の大幅削減、現場作業員の満足度向上という点で大きな効果が出ていると実感しています。

紙で運用していた過去の現場と比較して、点検、整理、承認作業を含む点検業務にかかる時間が大幅に削減され、昼休みなどに食い込んでいた書類整理の作業もなくなりました。毎朝現場を見てすぐにスマートフォンで安全点検を行い、承認するだけになったため、以前の現場では20分から30分かかっていた点検・整理作業が、わずか5分程度で完了するようになりました。

・書類管理について

1ヶ月のまとめ作業についても、紙ベースでは相当な時間がかかっていましたが、現在はデータでフォルダにまとめるだけになり、10分もかからずに終わるようになりました。

出力も、安全点検3ヶ月分で人数によっては500枚を超えるような膨大な量の紙が使われていましたが、導入後は紙の量がほぼゼロと大幅に減少しました。

・承認について

「GENBAX点検」を導入したことで、現場代理人など上位承認者の負担が大きく軽減されたと思います。

今の現場では、承認者を月次担当者として設定しているため、現場代理人は月の終わりに点検簿を見て承認するだけで済むようになっています。そのため、全ての承認完了までにかかる時間が非常に短くなりました。1ヶ月分の点検データをまとめてバツと見られるため、負担が減ったと感じています。

「GENBAX点検」を活用して取り組みたいことや展望があれば教えてください。

将来的にKYや作業計画書などの安全書類に対応する機能が「GENBAX点検」に搭載されたら、これらも全てツール内で完結させたいと思っています。

